

- ◇新年、あけましておめでとうございます。昨年はウイズコロナの生活や社会活動も新たな段階に入り、本会第71年会をはじめ多くの学会が対面で開催されました。さらに、外国人の入国規制も緩和され、個人的には国内で行われた国際学会に二度参加し、海外の研究者と交流できたことは、大変良い経験でした。今年の干支の「卯」は飛躍の象徴です。皆さんがコロナ禍の三年間で溜め込んだエネルギーを爆発させて、大きく飛躍する一年となることを祈念します。
- ◇今年入門講座は「分離技術：原理から最新技術まで」です。皆さんも研究や業務の中で何かしらの分離技術を利用していることと思います。分析は「別々にして区切りをつける(分)」「ばらばらに切りはなす(析)」という二字から成る通り、要素や成分ごとに分けて調べるという行為です。分析化学の本質とも言える分離技術を今一度、見つめ直していただければと思います。
- ◇ミニファイルでは「マイクロ・ナノの分析化学」が新たにスタートします。“マイクロ”や“ナノ”と付く材料や技術は既に多様な分野に広がっています。本号トピックスでも「マイクロプラスチック」、「マイクロ流路」が紹介されています。共通のキーワードを通して他分野の研究へ目を向けていただく機会になれば幸いです。
- ◇1月号より表紙デザインが変わりました。表題は「ポーラログラフ開発100周年に向けて」です。ロータリー欄にデザインの詳しい説明がございますので、ぜひ、ご覧ください。  
[Y. T.]

〈とびら〉

学会の会員構成と持続可能性……………津越 敬寿

〈入門講座〉 分離技術：原理から最新技術まで

固相抽出……………小池 裕也

〈展 望〉

科学捜査における微細サンプルのスクリーニングと  
非破壊分析の重要性……………西脇 芳典

〈ミニファイル〉 マイクロ・ナノの分析化学

先端的分析化学のためのナノ流体デバイスの  
作製技術……………小林 丈・許 岩

〈話 題〉

Lanmodulin：希土類金属イオンを選択的に  
結合するタンパク質……………半田 友衣子

◇ 編 集 委 員 ◇

〈委員長〉 勝田正一 (千葉大院理)	東海林 敦 (東京薬科大薬)	菅 寿美 (海洋研究開発機構)
〈副委員長〉 菅沼こと (帝人(株))	村居景太 (株共立理化学研究所)	
〈理事〉 津越敬寿 (産業技術総合研究所)	稲川有徳 (宇都宮大院地域創生科学)	岩井貴弘 (理化学研究所)
〈幹事〉 坂牧寛 (化学物質評価研究機構)	齊藤和憲 (日本大学生産工)	高橋あかね (オルガノ(株))
	富岡賢一 (三菱マテリアル(株))	照井教文 (一関高専)
〈委員〉 市場有子 (ライオン(株))	谷合哲行 (千葉工業大先進工)	野間誠司 (佐賀大農)
	岡村浩之 (日本原子力研究開発機構)	松神秀徳 (国立環境研究所)
	田中佑樹 (千葉大院薬)	森 勝伸 (高知大理工)
	永谷広久 (金沢大院自然科学)	
	福島健 (東邦大薬)	
	三浦篤志 (北大院理)	
	森山孝男 (株リガク)	
	堀田弘樹 (神戸大院海事科学)	
	宮下振一 (産業技術総合研究所)	
	山崎由貴 (国立医薬品食品衛生研)	

☑ 複写される方へ

日本分析化学会は学術著作権協会(学著協)に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写する場合は、学著協より許諾を受けて複写してください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3階  
一般社団法人 学術著作権協会

FAX: 03-3475-5619 E-mail: info@jaacc.jp

なお、複写以外の許諾(著作物の転載願い等)は、学著協では扱っていませんので、直接日本分析化学会へお尋ねください。

ぶんせき 2023年第1号(通巻577)

2023年1月1日印刷

2023年1月5日発行

定価1,000円

編集兼発行人 公益社団法人 日本分析化学会

印刷所 〒173-0025 東京都板橋区熊野町13-11

株式会社 双文社印刷

発行所 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2

五反田サンハイツ304号

公益社団法人 日本分析化学会

電話 総務・会員・会計: 03-3490-3351

編集: 03-3490-3537

FAX: 03-3490-3572 振替口座: 00110-8-180512

© 2023, The Japan Society for Analytical Chemistry

購読料は会費に含まれています。